

令和元年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	地域創造型教育ガバナンスの構造と構築過程に関する調査研究
報告者氏名・所属・職名	宮前耕史・釧路校・准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	半澤礼之・北海道教育大学釧路校・准教授 安井智恵・北海道教育大学教職大学院・准教授 登藤珠美・北海道教育大学附属釧路小学校・教諭 立野里奈・浦幌町立上浦幌中学校・教諭 河端将史・北海道標茶高等学校・教諭
研究内容及び成果の概要	
<p>持続可能性の実現に向け、地域に学校を軸とした、多主体間の連携・協働による教育の仕組みを構築していく必要がある。そうした仕組みを構築・運用しつつ、地域に「地域づくりと人づくりの好循環」を創出し、このことにより持続可能性の実現に「学校の中」から貢献していく人材＝教師を育成していく必要がある。このような課題意識に基づいて、本研究では、地域における学校を軸とした多主体間の連携・協働による教育の仕組みを「地域創造型教育ガバナンス」ととらえ、その構造と構築過程、およびこれを構築・運用していくために教職員はじめ関係者に求められる職能や心性に関する予備的考察を行った。</p> <p>より具体的には、小・中・高等学校が接続し、それぞれの段階において首長部局や地域の各種団体・機関等と連携・協働しながら持続可能性の実現に向けた地域人材育成の取り組みを行っている事例に関する情報の収集（先行実践・先行研究の収集）と整理・分析、現地調査、および地域創造型教育ガバナンスをめぐる政策動向の分析を行った。</p> <p>とりわけ本研究の課題の喫緊性にかんがみて、課題意識を広く地域と共有しながら研究を進めていく必要があるため、先進事例として岐阜県飛騨市を取り上げ、岐阜県立吉城高等学校キャリア教育コーディネーター・飛騨市学園構想プロジェクトマネージャーとして同市における「地域創造型教育ガバナンス」の構築に中核的な役割を果たしている株式会社Edo代表取締役・認定キャリア教育コーディネーターの関口祐太氏を招き、フォーラムを開催した（地域教育創造フォーラム2019）。</p> <p>その結果、「地域創造型教育ガバナンス」の構築においては①ゴールとビジョンの共有（熟議）、②関係性の質の向上（協働）、③およびこうした過程を差配するコーディネート機能の不可欠性が明らかとなった。</p>	
成果の公表の状況	
【著書】 特になし 【学術論文】 宮前耕史・関口祐太・北海道標茶高等学校地域環境系環境ゼミガイド班・平澤亜美・半澤礼之・江口彰・柴田快憲・吉光寺勝己・更科結希「地域教育創造フォーラム2019」『ESD・環境教育紀要』22、2020、pp.9-63（印刷中）	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
小・中・高等学校における「総合的な学習（探究）の時間」等における学校と地域の連携・協働による地域学習・ふるさと学習・ふるさとキャリア教育等に関する研修を行う際に利用可能である。	
配布又はダウンロード可能な資料	『釧路新聞』（令和元年12月8日（日）） ・釧路校HP「地域教育創造フォーラム（2019）を開催しました」（ https://www.hokkyodai.ac.jp/info_topics/kus/detail/9744.html ）
問合わせ先	代表者：宮前耕史 電 話：0154-44-3309 FAX ：0154-44-3218 mail ：miyamae.yasufumi@k.hokkyodai.ac.jp